

Vol. 179号

2025(令和7)年
7月1日発行

Colony Tokyo

コロニーとうきょう

社会福祉法人 東京コロニー
〒165-0023
東京都中野区江原町 2-6-7
TEL 03-3952-6166
FAX 03-3952-6664
<https://www.tocolo.or.jp/>
(法人本部 事務局)



アートビリティギャラリー 54 吉野公賀さん 『木漏れ日』(詳しくは27頁をご覧ください。)

時評

法人の主な動きから

2025 年度事業計画

とびっくす

2024 年度事業報告

法人本部・コロニー中野・トーコロ生活支援センター・アートビリティ(〒165-0023 中野区江原町2-6-7)・中野区仲町就労支援事業所(〒164-0011 中野区中央3-19-1)・コロニーもみじやま支援センター(〒164-0001 中野区中野5-3-32)・トーコロ情報処理センター 事業部・職能開発室(〒164-0001 中野区中野5-3-32)・デジタルメディアセンター(〒170-0005 豊島区南大塚3-43-11 福祉財団ビル6F)・東京都葛飾福祉工場(〒125-0042 葛飾区金町2-8-20)・立石工場(〒124-0012 葛飾区立石3-10-18)・コロニー東村山(〒189-0001 東村山市秋津町2-22-9)・東村山市障害者就労支援室(〒189-0014 東村山市本町1-1-1)・東京都大田福祉工場(〒143-0015 大田区大森西2-22-26)・トーコロ青葉ワークセンター・トーコロあおば就労サポートセンター(〒189-0002 東村山市青葉町2-39-10)・国分寺戸倉寮(〒185-0003 国分寺市戸倉1-21-9)・東久留米第一氷川台寮・東久留米第二氷川台寮(〒203-0004 東久留米市氷川台2-31-22)・東久留米第三氷川台寮(〒203-0002 東久留米市神宝町2-14-26)・えはらハイツⅠ、Ⅱ・中野江原短期入所・中野区日中一時支援(〒165-0023 中野区江原町3-23-2)・とよたまハイム(〒176-0014 練馬区豊玉南2-3-9)・こあらハイツ(〒202-0013 西東京市中町3-10-9)・あおばハウスⅠ、Ⅱ(〒189-0002 東村山市青葉町3-2-2)

時評

真の目的

理事長 中村 敏彦

創設される事業

いよいよ、今年10月より就労選択支援事業が始まります。障害者の働き方などの要望や相談に応えるため、就労選択に関する様々なサポートを実施する、とても重要な事業として受け止めています。

現在の就労移行支援事業や就労継続支援A型・B型事業などの就労系福祉サービスは、多くの障害がある人の就労を支えています。次のような課題が指摘されていました。

- ① 利用申請前に、就労能力や一般就労の可能性などを十分に把握することが困難なため、適切なサービスに繋がれていない。
- ② 一度、就労継続支援事業の利用が始まると、そのまま利用が継続しやすい。

③ 本人の立場に立ち、次のステップを促す支援者がいるかどうかで、本人の職業生活、人生が大きく左右される。

就労選択支援事業は、これらを解消するために創設されたということです。しかし、財務省の報酬改定チームへの予算抑制意見を踏まえると、それだけが真の目的には思えない節が残ります。

厚労省では、この事業の目的を、「働く力と意欲のある障害者に対して、障害者本人が自分の働き方を考えることをサポート（考える機会の提供含む）するとともに、就労継続支援を利用しながら、就労に関する知識や能力が向上した障害者には、本人の希望も重視しながら、就労移行支援の利用や一般就労等への選択の機会を適切に提供する。」と説明しています。

私は、本事業を否定するつもりはありません。むしろ障害のある人の適切な就労選択のために活かすべきと思いますが、すでに就労系事業を実施している法人として、この事業の重要性を理解した上で、いくつかの疑問と懸念を示しておきます。

【疑問1】既存事業やサービスの見直しはダメなのか

就労の質を常に自問しながら、可

能な限り高処遇を目指し、企業等で働くことを希望する人には、個別に必要なリハビリテーションプログラムを用意して、できるだけ多くの人を送り出すなど、これまで、既存の事業も相当の努力をし、実践してきました。なぜ、指摘している課題の原因をさらに追究し、人材育成や基準単価の引き上げ、人員配置の見直し、サービスの質を問うことなど、解決するための施策を考えられなかったのかと思います。

【疑問2】なぜ1カ月なのか

支給決定期間を原則1カ月としています。福祉サービスの利用には長過ぎ、一般就労には短過ぎます。1カ月間で実施するサービスは次のとおり濃い内容となっています。

就労に関する適性・知識・能力評価や就労に関するアセスメントを実施し、アセスメント結果の作成には、利用者や関係機関を招集して多機関連携会議を開催し、本人の意向確認を行い、それぞれに意見を求めます。アセスメント結果に応じて関係機関等との連絡調整を実施し、協議会への参加等により、地域の就労に関する社会資源や雇用事例等に関する情報収集、利用者への進路選択に資する情報提供を実施します。しかも、支援員は15対1の配置基準です。就

労選択支援員には相当のマンパワーが求められるものと思います。はたして、わずか1カ月で、そんなことができるのでしょうか。

【疑問3】当事者の立場で

この事業の対象者は、新しく就労継続支援A型・B型、就労移行支援事業を利用する人、あるいはすでに就労系事業を利用しており、就労選択支援を希望する人となっています。

いわゆる「直B就労アセスメント」に極めて近い要素があります。制度はできるだけ簡潔で利用し易いことが求められます。利用する当事者にとって、複雑になり利用しにくくなつた感が否めません。

【懸念1】高い報酬単価

他の就労系サービスよりも高い基準単価が設定されています。高い報酬単価で連想するのは、利益優先の不適切な運営です。色々と対策を考えてあるようですが、想定外の不正は複雑化するほど発生しやすいものです。障害者が不当な営利目的の道具にならないことを願います。

【懸念2】選択肢の問題

新しく就労系サービスを利用した人は、就労選択支援事業の利用が前提となります。しかし、そもそも既存の就労系サービスを希望したいと思ひ、就労選択支援事業を利用し

たかない人の場合、自己選択の権利はどのようなものなのでしょう。

厚生労働省は、就労選択支援事業について、全国6カ所でモデル事業を実施し、先日報告会を開きました。参加した障害者や家族から肯定的な評価があった一方で、就労選択支援員にはアセスメント力や、多機関との調整力、地域資源の知識など、支援員に求められる高いハードルや課題も浮き彫りになりました。

実施主体は、過去3年以内に3人以上を雇用に結びつけた実績のある就労移行支援事業所、就労継続支援A型、B型事業所などとされ、配置する就労選択支援員は養成研修の修了が要件となります。アセスメントでは高齢・障害・求職者雇用支援機構（JEED）が開発したツールの活用を標準とし、ケース会議には障害者本人の参加も求めます。

教育、暮らし、雇用、福祉、医療、行政などのネットワークも必要で、地域の社会資源の情報を的確に把握するなど相当の体力を要すことと思われる。障害者の就労の第一歩を決めるとても重要な役割をもつだけに、本人が働く先を決定するお手伝いをする、という真の目的を肝に銘じて検討しなければなりません。

人間力・人間性を磨こう

話は変わって、昨年の「コロニーとうきょう」7月号1・177に「人間力を磨こう」という記事を書きました。管理職研修の事前説明の中で触れられていたキーワードで、大変興味をもったからでありました。

しかし、実際の研修では「人間力」よりも「人間性」がもっと重要であることに触れられましたので、改めて書くことにしました。

人間性とは、人間が本来的に持っている性質や本質、つまり人間らしさと理解します。ついては、「磨く」というより「高める」という表現が正しいのかもしれませんが、確かに力を磨くより本質を高める方が重要に思いますが、一概にどちらかを決めるものでもないと思います。

しつこいようですが

今回は少し事例を挙げて、あくまでも私なりに思っていることを、自戒を含めてまとめてみました。

人間性とは、人としての器のようなもので、良いところも悪いところも個性として評価され、他人からの影響は少なく、自らの固い意志がないと変わらないと思います。しかし

一方で、そのままの状態が尊重されるべきとも思います。

人間力とは、信頼される人の要素のようなもので、他人から学ぶことも多く、周りの環境や自身の経験が育んでいくものだと思います。

例えば、挨拶ができる。約束の時間が守れる。そんな当たり前のことでも、できている人にはそれだけで信頼感が持てます。気持ちの良いあいさつや時間を守ることというのは、相手を尊重している証です。

そして、正論で相手を論破しないこと。たとえ自分が正しくても、それをどう伝えるかが重要です。正論で相手を追い詰めず、相手の立場や気持ち想像すること、さらに、異論にも耳を傾け、議論することがより良い人間関係作りには有効です。

また、結果だけを求めるのではなく、達成までの過程も大切にすること。過程に意味を見い出せる人は失敗にも強く、新たな挑戦の力に変えていけるのではないのでしょうか。

そして、夢を語ることも大事なことでだと思います。たとえ根拠がなくとも自分を信じる力が、勇気につながっていくように思います。他人と比べるのではなく、自分自身との信頼関係を築けると思うのです。

一方で、変化を素直に受け入れる

ことも大切です。時代も人も、自分自身さえも、どんどん変わっていきます。変化に抵抗するよりも、流れを読み、それを受け入れる柔軟さが、結果的には、その時代を支える人になるように思います。

人生は、良い時ばかりではありません。苦しい時、投げ出したくなる時もたくさんあります。そんな時こそ人の本質が問われます。どんなにつらい時でも自分を嫌いにならず、腐らず、その時は、希望が見えなくても、誠実に一歩を踏み出せば、必ず次につながると信じましょう。

私達の仕事には、何かをしてあげるという精神ではなく、その人の幸せを願う姿勢や、共に幸せを築こうという信念が求められます。自己満足に終わることなく、しっかり相手をみて、目の前の人を信頼し、大切にできる人を目指そうと思います。

説教じみた文章になりましたが、自分自身への言い聞かせのつもりで書かせていただきました。

改めて、組織は様々な人たちによって支えられているという感謝の思いと、東京コロニーの事業の真の目的を達成するためには、こんな人たちに支えられている組織でありたいと心より願います。

法人の主な動きから

東京都大田福祉工場 デジタル化事業への取り組み

東京都大田福祉工場は、2025（令和7）年で創立50周年を迎える節目の年にあたり、記念事業の一環として、コロニー東村山が2021（令和3）年より取り組んでいる国立国会図書館蔵書デジタル化事業に着手いたしました。

これに伴い、倉庫棟の全面改修を行い、新たに「デジタル棟」として整備し、作業環境を整えました。このデジタル棟は、蔵書の保護と効率的なデジタル化作業の両立を目指し、温度・湿度の管理に優れた耐火書庫を備えており、貴重な資料の保存・活用を支える中核施設となります。

蔵書デジタル化作業には、専用のブックスキヤナを導入し、一冊ずつ丁寧にスキヤンしていく体制を整えました。国立国会図書館資料の多くは長年にわたり保存されてきた貴重なものであり、紙質の劣化や装丁の

傷みなどにも配慮が必要です。そのため、作業は高い集中力と慎重な取り扱いが求められます。また、資料の保管状態を維持するため、作業環境は年間を通じて一定の温湿度を保ち、最適なコンディションが保てるよう細心の注意を払っています。



デジタル棟全景



耐火書庫

デジタル化に必要な作業工程は多岐にわたりますが、一つひとつの工程が明確で一定のリズムで進められるため、利用者の能力に応じた丁寧な指導と支援が可能です。それぞれの特性に合わせた新たな就労機会の創出を目指していきます。

図書館蔵書のデジタルアーカイブ化は、地域に残る貴重な知的財産を未来に引き継ぐだけでなく、障害者就労の新たなステージを開拓する取



スキヤナ撮影室

り組みでもあります。さらに、この実績を足掛かりとして、今後は国省庁および地方自治体が保管する行政文書や資料のデジタル化にも事業拡大を図るため、工場棟内に第二スキヤナ室を整備しドキュメントスキヤナを導入する予定です。これにより障害者が携わる作業工程のさらなる創出に取り組みとともに、社会全体の情報資産の保全と利活用に貢献していきたいと考えています。

本事業にあたって大きなご支援を頂いた日本財団様、ご指導くださったコロニー東村山の皆様、整備・改修にあたった御担当の方々に改めて心より御礼申し上げます。

東京都大田福祉工場

事業課長代理（デジタル事業係所管）

吉田優子

SDGsへの取り組みから

東京コロニーではSDGsへの取り組みにあたり、中野区の「なかのSDGsパートナー」、法政大学の「SDGsパートナーズ」に参加しています。

それぞれ交流会が行われており、中野区では2回の発表の機会をいただきました。1回目は「書籍等デジタル化事業」における施設利用者の職域開拓や工賃向上などについて、2回目は「低カリウムレタス栽培事業」をつうじた健康生活への貢献等について報告しました。これからの地域と連携することで新しい活動に繋げられればと考えています。

このほか、法人内ではフードロスをなくす取り組みも行っているのご紹介します。

一つ目は東村山市内社会福祉法人連絡会が行う食糧支援事業への参加です。コロニー東村山では、食糧を寄附するだけでなく、市内で集められた食糧を経済的に困窮されている方に事業所を開放してお配りしています。申し込みされた方全員に均等にお渡しできるように、食品の並べ方、種類などに気を配り不公平のないように工夫しています。来所された方から「本当に助かります」「あり

がとう」と感謝の言葉をいただき、職員も身がひきしまる思いで臨んでいます。

二つ目は、コロニー中野が運営する「ベーカリーころ・ころ」にて、お店で余ったパンを冷凍して、ネット販売する取り組みです。「リベイク」という、廃棄される前の「ロスパン」を販売するサイトに出品しています。リベイクでは、購入希望者がお気に入りの店舗にあらかじめ申し込みをしておき、ロスパンが発生したら、箱いっぱい詰まった冷凍パンが送られてくるという仕組みです。「ころ・ころ」には常に待っているファンの方もいらつしやう、「リベイクアワード」の「スタッフおすすめ部門」も受賞しました。よろしければみなさんもご利用ください。

事務局長 岩田真紀



理事・監事・評議員・苦情解決第三者委員の選任

2025年6月に開催された評議員会、理事会、評議員選任・解任委員会において、任期満了にともなう理事・監事・評議員・苦情解決第三者委員の選任が行われましたので、ご報告いたします。

引き続き東京コロニーの事業にご指導ご支援をお願い申し上げます。(以下敬称略)

理事 中村 敏彦 (理事長)	評議員 兼 苦情解決第三者委員
理事 湯浅 克己 (常務理事)	朝日 雅也 (県立大学名誉教授)
(東京都大田福祉工場所長)	評議員 兼 苦情解決第三者委員
理事 近藤 章夫	湯田 正樹 (NPO法人副理事長)
(東京都葛飾福祉工場所長)	評議員 外川 勝久
理事 坂田 利胤	(元 設計コンサルタント会社理事)
(トコロ情報処理センター所長)	評議員 富澤 みち子
理事 高橋 宏和	(元 当法人事業所総務部長)
(コロニー東村山所長)	評議員 高橋 毅
理事 坂本 崇	(社会福祉法人常務理事)
(コロニー中野所長 兼 地域生活支援本部所長)	評議員 橋本 弘
理事 井上 忠幸	(元 社会福祉法人理事長)
(中野区仲町就労支援事業所所長 兼	評議員 佐野 竜平
コロニーもみじやま支援センター所長)	(私立大学教授)
監事 兼 苦情解決第三者委員	評議員 堀口 明子
大塚 淳子 (私立大学教授)	(特例子会社代表取締役社長)
監事 高橋 和也	評議員 上西 陽子 (新任)
(税理士)	(社会福祉法人理事長)
監事 堀端 秀和 (新任)	
(社会福祉法人専門統括副参事)	

以下の方々は、今期をもって退任されました。長年に渡り当法人を支えてくださったことに深く感謝いたします。

監事 神野 敏夫 (元 当法人事務局長) 評議員 松村 正一 (公認会計士・税理士)

2025（令和7）年度 事業計画

1. はじめに

本年度も、感染症予防対策を継続して事業運営に取り組んでいきます。海外における紛争や自国優先のリーダーなどによる経済情勢への影響は予測困難な状況ですが、事業計画は様々な物価高騰によって各事業所の運営は厳しくなることを想定して組み立てることとします。

中期事業計画（2022年度～2026年度）の4年目となります。常務会等をつうじて法人ならびに各拠点の課題を共有し、法人全体で課題解決に努めます。担当理事制による拠点単位の管理体制、世代交代の段階的実施による事業運営、一部の総務経理事務の本部統合などを含めて継続して取り組み、併せて、近年の自然災害などを教訓に防災意識を高め、災害発生時の準備なども着実に進めていきます。

国連障害者権利委員会による総括所見や一般的意見などを背景に、インクルーシブな環境に変化するための施策は進展するものと思われま。当法人も社会環境の変化に注視し、障害のある人の暮らしの向上を目指し、関係団体と連携して諸課題に取り組んでいきます。

2. 事業方針と予算の特徴

中期事業計画を推進しつつ、各事業所の就労支援事業では、材料や製品等の仕入れ、水道光熱費などの必要経費の高騰は当面続くものと予測して厳しく見込みます。一方、障害福祉サービス事業では、法人事業を必要としている人たちの立場に立ち、支援の質の向上を目指します。法人全体、あるいは拠点間で情報の共有、協力・連携して運営し、とりわけ、法人の活動を支える人材確保や人材育成を重点課題として取り組みます。

(1) 経営の基本方針

- ・経営理念や倫理、社会的役割に伴うコンプライアンスやガバナンスを重んじた法人運営に継続して取り組みます。

- ・支援の質的向上のために、福祉サービス第三者評価機関の審査を受けるとともに、苦情解決第三者委員制度の運用や広報誌やホームページ等による情報開示に取り組みます。

- ・法改正や業務改善などに伴う法人の規程等を必要に応じて見直しします。

(2) 財務・資金管理

- ・会計顧問の指導を受けながら会計基準に則り、精度の高い管理に努

め、さらに外部会計監査人の指導を会計管理に反映させます。

- ・外部からの借入金は前年同様とします。法人本部が全体を把握して拠点間の窓口となつて調整に努め、可能な範囲で内部の資金活用を優先します。

(3) 事業の継続

- ・事業所ごとのBCP（事業継続計画）は、必要に応じて適宜見直ししていきます。

- ・引き続き、感染症の予防対策には徹底して取り組むこととします。

- ・常に経営改善に視点を置き、持続可能な事業への体質改善を図ります。

(4) 人材確保・育成

- ・継続的に人材確保に努め、経営や福祉の専門性を向上することを目的とした教育、研修を計画的に実施して人材育成に取り組みます。

- ・人事考課制度やハラスメント対応の手引き等を活用して風通しの良い職場環境づくりに努め、一人ひとりの活躍の場を充実させます。次世代を育成し、世代交代も視野に順次進めていきます。

(5) 他の団体との協力連携

- ・障害者福祉の向上のために、各省市ならびに、東京都、各区市自治体、

全国社会福祉協議会、東京都社会福祉協議会、一般社団法人ゼンコロ、特定非営利活動法人日本障害者協議会、全国社会就労センター、日本セルフセクター、東京都セルフセクターなどにおいて積極的に役割を果たします。また、従業員等が、対外的な立場において充分に役割発揮ができるように、可能な限り配慮し支援します。

・SDGsに取り組みと同時に、参加しているパートナーとは可能な限り連携していきます。

(6) 地域活動

・障害者権利条約に基づく「社会モデル」、総括所見が示唆する「人権モデル」を基調とした支援体制は、地域の様々な社会資源との連携が不可欠となります。拠点ごとの地域活動においては、各自自治体との連携を深め情報交換を密にしながら、地域福祉の向上ならびにニーズに応じた障害者福祉の充実に努めます。また、地域の福祉関連ネットワークには積極的に参画し、重要な社会資源になり得ることを目指します。

3. 各事業所の計画概要

担当理事制を中心に拠点単位の管理運営とします。新たに創設された

「就労選択支援事業」は10月から施行されます。個別的就労ニーズに確実に応えるために、実施の方向で検討に入ります。拠点間で協力・連携を活発に行い、新規事業への挑戦や既存事業の安定経営、ならびに福祉の専門性の向上を目指し、拠点が所在する地域のニーズに添えていきます。併せて、法人の公益事業は、将来のあるべき役割を想定しながら法人全体で支えられるよう検討を重ねます。

(1) 法人本部

法人全体、法人内の各事業の充実を目指し、法人の抱える諸課題への対応、組織の強化策や運営改善、ガバナンス強化等において役割を果たします。4年目となる中期事業計画には、各拠点と協力しながら主体的に関わり実現を目指します。

事務局の一部事務統合については、コスト意識に基づいた業務の省力化や事務処理の効率化を一層推進します。法人内の会議、委員会、研修等は、感染症予防を継続し、オンラインや参集による方法も併用して効率的に実施します。

(2) 地域生活支援本部

前年度からコロニー中野との兼務管理体制となった地域生活支援本部は、引き続き、地域生活を支援する

事業として、グループホーム、短期入所、特定相談支援事業、居宅介護事業等を運営します。グループホームは空室の充足に努力し、重度・高齢化への対応にも取り組みます。また、地域連携推進会議と見学会を実施し、支援内容の向上に反映させます。中野区視覚障害者代筆・代読支援事業は継続しますが、居宅介護、重度訪問介護、同行援護、移動支援サービス等は、人材確保が困難なため地域ニーズに添えることが困難な状況です。中野第二江原寮と短期入所福祉サービス第三者評価を受審する予定です。

(3) トーコロ情報処理センター

前年度に統合した事業部とデジタルメディアセンターに加え、本年度は職能開発室も統合して事業運営にあたります。統合することにより大塚拠点の事務所は縮小して経費節減を図り、生産効率や競争力を高め事業効率・収益性を向上させるなど、より多くの成果が出ることを目指します。将来を見据えながら、要となる人的価値を原動力として、長期的価値と事業の創出にも取り組んでいます。職能開発室で受託していた東京都障害者IT地域支援センターは、組織統合に伴い前年度末に東京

都に返還しました。在宅IT教育は、引き続き受講生の技術の獲得と社会参加に全力を注ぎ、オンラインとオフラインを効果的に使って運用していきます。

(4) コロニー中野

人員配置を適宜見直しながら確実な支援体制を構築して利用率の向上を図ります。引き続き、高齢化や障害の多様化・重度化への対応に取り組み、作業に入ることが困難な人には適性のある仕事を増やし、一方、より高い工賃を目指す人には、効率的な生産体制を構築するとともに、支援体制を充実するために積極的に人事施策を展開し、当事業所を利用するすべての人にとって、魅力のある施設運営を目指します。

(5) 中野区仲町就労支援事業所

中野区との基本協定に基づき、魅力的かつ有意義な事業運営を目指します。本年度は指定管理最終年度となるため、次期指定管理の受託に向けて地域ニーズを確実に把握し、社会生活に困難がある方への対応も可能となるように区内施設・サービス事業者との連携協力を進めます。長欠者が多い就労継続支援B型事業の通所率の向上を目標とし、可能な限り多くの方に利用していただけるよ

う日々の支援の充実に努めます。就労移行支援事業は、過去4年間の利用実績はないものの、一般就労へのニーズは一定数あることから、本人のニーズを主体的に取り入れて企業就労へつなげることを目指します。

(6)コロニー東村山

就労支援事業では、印刷事業の体制を見直しデジタル化事業の高収益化に取り組み、事業の安定化を図ります。売上高を前年度の実績見込みと同額として、必要加工高を確実に確保し、利用者の工賃向上を全従業員が意識して取り組みます。障害福祉サービス事業は、支援の質の向上を図ると共に実習や利用希望者を積極的に受け入れ、定員確保を目指します。

東村山市から受託している「東村山市障害者就労支援室」は、体制の立て直しを図り東村山市や市民のニーズに十分対応できるようになったため、本年度は支援員1名を事業所へ異動する予定です。特定相談支援事業所「ふきのとう」は、非常勤職員1名を増員し本来の2名体制とし、東村山市および市内近隣相談支援事業所と連携して地域の期待に応えられるように、それぞれのノウハウを十分に発揮しながら対応していきます。

(7)トーコロ青葉ワークセンター

就労支援事業では、前年度に開始した新体制による発送業務で多くの課題が表出したため、作業ルールの見直しと改善に組織全体で取り組み、既存顧客やスポット案件を安定して受注できる体制を再構築します。また、10月から施行される就労選択支援事業を想定した就労支援プログラムの構築と提供を事業所全体の課題とし、放課後等デイサービス「アリーバ」にも活用できる有効なツールとなるよう作成していきます。前年度、再開した平日プログラムは土曜プログラムとのメニューの棲み分けを行い、より参加しやすい内容を提供します。すべての事業において支援の質の向上に取り組み、充実した活動を実施することで、多様な地域ニーズに添えていきます。

(8)コロニーもみじやま支援センター

多機能型施設の各サービスを有機的に活用して、個別ニーズに沿った支援計画の作成と支援内容の充実を図り満足度の向上に努めます。感染予防に継続して取り組み、処遇向上を念頭に就労支援事業の量と種類を提供できるよう努め、また、QOL向上のためストレスの軽減や体調維持に配慮したプログラム等を実施し

ます。2022年度、1階に一部を移動した公益事業のトーコロ情報処理センターと連携して、地域から必要とされる施設を目指します。就労選択支援事業は、区内事業所と協力しながら中野区とも相談の上、検討していきます。

(9)東京都葛飾福祉工場

障害福祉サービス事業は、余暇活動や教育研修プログラムを充実させ、特定相談支援事業は、葛飾区や関係機関ならびに他の相談支援事業所と協力・連携しながら、サービス等利用計画を立案します。個人情報保護や虐待防止・権利擁護、ハラスメント防止などに取り組み、風通しの良い職場環境を目指します。コロナ禍により開催を見送ってきたプログラムやレクリエーション等も随時再開しており、本年度は、金町・立石工場の合同行事として、「かつしかフェスタ」を立石工場で開催し、近隣施設の方や子供たちを迎え、開かれた地域交流の場に育てていきます。就労支援事業では厳しい展開が予想されますが、全部門で協力して結果を残せるよう努力していきます。

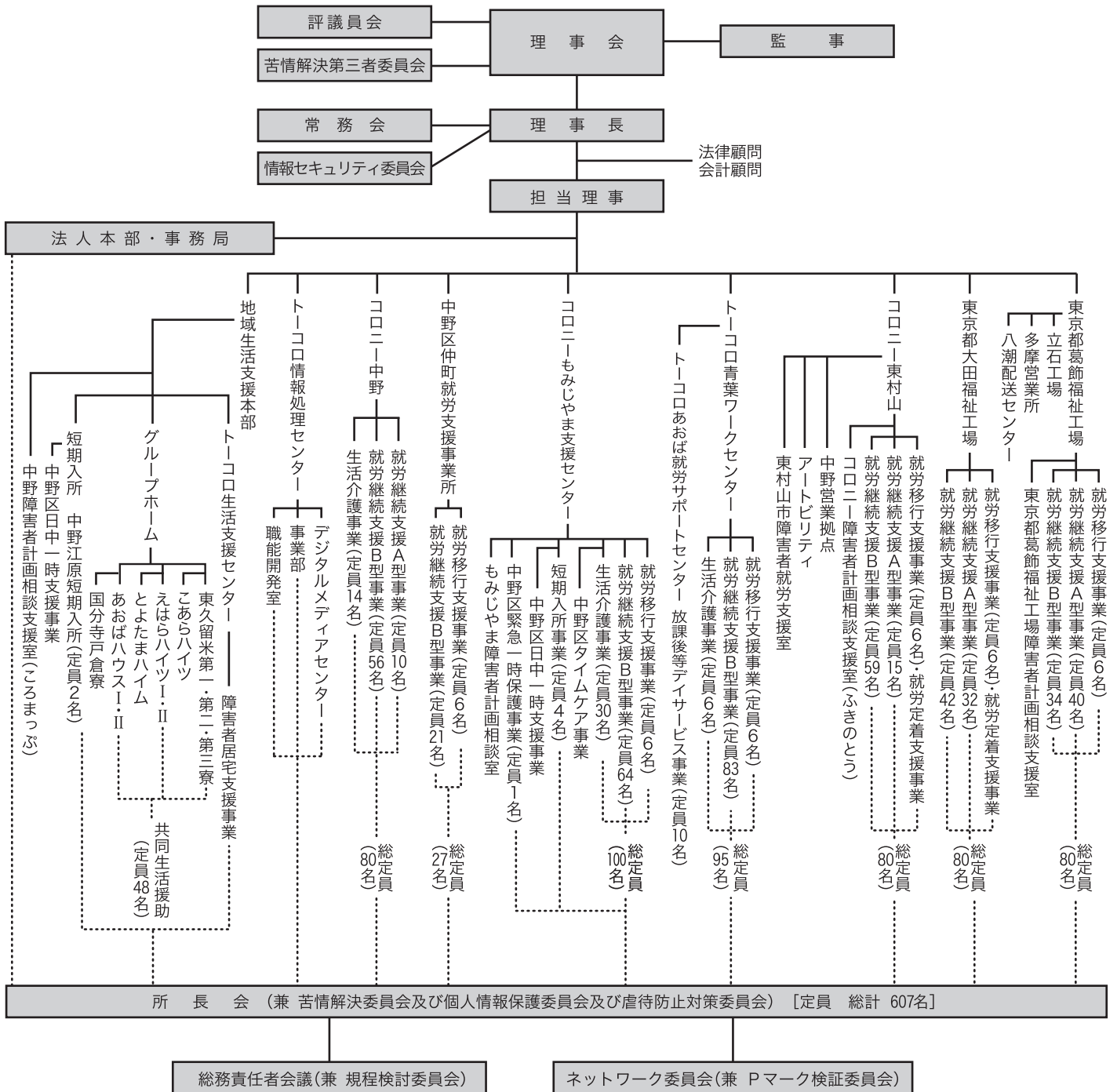
(10)東京都大田福祉工場

本年度、創立50年を迎えるにあたり、従業員をはじめ多くの関係者に

支えられてきたことに深く感謝を申し上げます。就労支援事業は、厳しさを増す印刷事業には「障害者優先調達推進法」を活用して受注の回復に努めてきましたが、引き続き、組織の活性化、チーム間の連携、従業員の多能化をさらに進め、収益向上に努めます。また、日本財団の助成を受け、デジタル化事業に新規参入するとともに、オンデマンド印刷システムを導入するなど生産体制の強化を図ります。

障害福祉サービス事業は、困難課題を抱えた障害者の受入先として、地域の中で一定の評価を得てきましたが、重篤な障害やメンタルなど様々な困難課題を抱える人が年々増加し、安定した通所に向けた支援が課題になっており、一層のチーム支援力の充実や、事業所内の心理的安全性の確保に取り組み、事業所が持つパフォーマンスを最大限発揮できるよう努力していきます。





2025（令和7）年度 予算書

2025年 4月 1日

（単位：円）

勘 定 科 目			前年度予算額	当初予算額	増 減
事業活動による収支	収入	就労支援事業収入	4,984,103,000	5,088,015,000	103,912,000
		障害福祉サービス等事業収入	1,323,540,020	1,388,406,780	64,866,760
		その他の事業収入	182,194,909	178,969,184	-3,225,725
		経常経費寄附金収入	8,399,000	9,346,000	947,000
		受取利息配当金収入	1,033,140	1,421,000	387,860
		その他の収入	47,566,967	46,469,000	-1,097,967
		事業活動収入計(1)	6,546,837,036	6,712,626,964	165,789,928
	支出	人件費支出	1,033,846,265	1,065,562,900	31,716,635
		事業費支出	108,908,361	112,643,963	3,735,602
		事務費支出	250,304,470	269,891,231	19,586,761
就労支援事業支出		4,783,369,246	4,968,379,233	185,009,987	
その他の支出		158,009,135	147,898,935	-10,110,200	
利用者負担軽減額		8,551,000	8,413,000	-138,000	
支払利息支出		8,220,000	10,038,000	1,818,000	
その他の支出	6,066,226	6,147,000	80,774		
事業活動支出計(2)	6,357,274,703	6,588,974,262	231,699,559		
事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)			189,562,333	123,652,702	-65,909,631
施設整備等による収支	収入	施設整備等補助金収入	90,000	311,414,428	311,324,428
		その他の施設整備等による収入	24,000	24,000	
		施設整備等収入計(4)	114,000	311,438,428	311,324,428
	支出	設備資金借入金元金償還支出	25,956,000	25,956,000	
		固定資産取得支出	100,731,205	335,491,000	234,759,795
		ファイナンス・リース債務の返済支出	2,738,240	2,599,240	-139,000
		その他の施設整備等による支出	2,279,000	2,823,000	544,000
施設整備等支出計(5)	131,704,445	366,869,240	235,164,795		
施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)			-131,590,445	-55,430,812	76,159,633
その他の活動による収支	収入	積立資産取崩収入	19,311,000	79,636,000	60,325,000
		拠点区分間長期借入金収入	40,000,000		-40,000,000
		事業区分間長期貸付金回収収入	3,000,000	3,000,000	
		拠点区分間長期貸付金回収収入	9,100,000	9,095,000	-5,000
		事業区分間繰入金収入	6,263,000	5,660,000	-603,000
		拠点区分間繰入金収入	89,293,299	65,327,000	-23,966,299
		その他の活動による収入計(7)	166,967,299	162,718,000	-4,249,299
	支出	積立資産支出	70,700,000	24,770,000	-45,930,000
		拠点区分間長期貸付金支出	40,000,000		-40,000,000
		事業区分間長期借入金返済支出	3,000,000	3,000,000	
		拠点区分間長期借入金返済支出	9,100,000	9,095,000	-5,000
		事業区分間繰入金支出	6,263,000	5,660,000	-603,000
		拠点区分間繰入金支出	89,293,299	65,327,000	-23,966,299
		その他の活動による支出	700,000	556,000	-144,000
		その他の活動支出計(8)	219,056,299	108,408,000	-110,648,299
その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)			-52,089,000	54,310,000	106,399,000
予備費支出(10)			92,882,888	122,531,890	29,649,002
当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)			-87,000,000		87,000,000
前期末支払資金残高(12)			2,759,903,148	2,672,903,148	-87,000,000
当期末支払資金残高(11)+(12)			2,672,903,148	2,672,903,148	

トピックス



2013年に創刊し、これまで37号発行しました。

コロニー中野

「コロちゃん」

コロニー中野では利用者さんと一緒に活動を行う委員会が5つあり、その中の一つに広報委員会があります。広報委員会では年に3回「コロちゃんひろば」という広報誌を作成しています。1冊の広報誌を作成するために数回、会議を行い、内容、記事を書く担当、依頼する担当、写真撮影担当等を決めます。内容を決めるにあたっては委員がアイデアを持ち寄り、意見を出し合います。

記事を集め、何度も校正をし、やっと1冊の広報誌が出来上がります。写真を撮るのが得意な人、イラストが得意な人、記事を書くのが得意な人、記事をまとめるのが得意な人など、みんなの得意を活かして活動ができる委員会です。

コロちゃんひろばには「コロちゃん」というキャラクターが登場し、そのキャラクターの中にはある文字が隠れています。私は広報委員になるまで気がつきませんでした。このコロちゃんの生みの親は誰もが知る営業マンで、20年以上前に公募で決まったそうです。

毎号「コロちゃん掲示板」という人気コーナーがあり、ここにはコロニー中野と同じ建物で働く人たちの写真とその時の質問に対するコメントが載ります。こんなことが好き、こんな所に行ったことがある、こんなことをしてみたい…とみなさんのことを知る楽しいページです。ここで初めましての方



コロちゃんを横にして見るとある文字が…。

を知ることできます。

他に広報委員会ではコロニー中野のブログも担当しています。こちらはタイムリーな記事が載せられていますので、みなさんチェックしてみてくださいね。また載せてほしい記事がありましたら募集中です。今後みなさんに楽しんでもらえる広報誌を委員のみなさんで作成していこうと思います。

支援課 深谷尚子

中野区仲町就労支援事業所

余暇プログラム「バーベキュー」

5月に中野区平和の森公園にて、バーベキューを行いました。この日は一日、仲町での作業はお休みです。前回バーベキューを行ったのは新型コロナウイルス流行以前だったそうで、久しぶりのバーベキューです。今回参加された利用者さんは10名でした。私自身はバーベキューをあまりやったことがなかったので内心ちょっとドキドキしていました。当日の天気予報は晴れのち曇り、気温は28度、湿気があり、蒸し暑いという予報で、ちよつと暑さが心配でした。前日より利用者みなさまと職員で食

材を買ってきて、一緒に切った野菜、下味をつけたお肉、購入した海鮮、ジュース類や、作ったおにぎりなど必要な物を車に積んで、平和の森公園に出発しました。駅待ち合わせの利用者さんも、現地集合の利用者さんも皆集まりました。

平和の森公園のバーベキュー場では道具一式はレンタルで、カセットガスグリル、カセットガス、テーブル、椅子、トンブ、キャンブワゴンなどがあります。道具の使い方も係の方が丁寧に説明していただけます。とても暑くなるかもしれないと思っていましたが、バーベキュー場は木陰で、良い風も吹いて、そこまで暑くはなかったです。とはいっても持ってきたジュースやお茶はしばらくしたら無くなってしまい、すぐ近くのスーパーに追加で買いに行きました。肉は牛・豚・鶏三種類、野菜は玉ねぎや、カボチャ、トウモロコシなど、海鮮はホタテとエビ、そして焼きそばと焼きおにぎりをたくさん焼いていただきました。食後のアイスもスーパーで買ってみんなで食べることができました。利用者さんがスマートフォンで音楽を流してくださったのでその音を聴きながら、公園内でゆったりとした時間を過ごすことができました。



なにかと準備に手間取ってしまうイメージのバーベキューでしたが、身近な中野区の公園内でできることを知りました。そして道具もレンタルで、近所にスーパーがあり、買い足しができるので、とても便利です。また機会があったら平和の森公園でバーベキューをしようかと話しながら帰りました。

支援課 喜多見洋子

コロニーもみじやま 支援センター

安全なケアと自立支援を図る 福祉用具の導入について

昨年11月からコロニーもみじやま支援センターに着任しました、理学

療法士の亀山知典と申します。よろしく願い申し上げます。

現在までリハビリテーションの対象となる利用者の皆様に対して、個別のリハビリテーションを提供させて頂いております。その中で、各利用者の身体状態の評価も並行して進めておりますが、福祉用具が適応となる方もいらっしゃいます。例えば、歩行時のふらつきがある方に対して、歩行器を使用して転倒防止を図ることや、車椅子からトイレの便座に移乗する際に、安全に移ることができる機器などもあります。今回は、当事業所で導入した福祉用具を、いくつかご紹介させて頂きます。

(1) HUG (ハグ)

スタンディングリフトと呼ばれるいる福祉用具の1つです。主に足の筋力が低下して、自力で立ち上がることが困難な方に使用します。対象

者の立ち

上がりをサポートして、介助者の介護負担を軽減し、さらに対象者の安全にも大



きく寄与してくれそうです。

(2) リフト

当事業所にある設備の一つで、これまでは使用頻度が少なかったのですが、重度心身障害者の方々が、安全・安楽に移乗できる福祉用具と判断しまして、使用を開始しました。これまで関係職員で研修を重ねて、現在は円滑な使用が達成できております。



(3) サークル型歩行器

歩行状態が不安定で、転倒のリスクが高い方が対象となります。両腕を歩行器のサポート部分に乗せたまま歩くことが可能な

ので、バランス良く歩行を行うためには非常に有効です。車輪がついているので、重さを感じることなく、快適に歩行することが可能です。



(4) フレックスボード

主にリクライニング車椅子からベッドに移乗する際に、従来は抱え上げて介助することが多かったが、この用具を使用した場合、対象者は寝たままスライドして移



ることができず。前述のHUGと同様に、対象者の安全と介助者の負担軽減に寄与してくれそうです。

以上になります。今後も、リハビリテーションの実施を通じて、各利用者に適切な評価を進め、必要に応じて最善の福祉用具を提案させていただき、関係職員と一緒に検討していく予定です。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

理学療法士 亀山知典

コロニー東村山

春のお台場バスツアー

4月の余暇活動プログラムとして、4月20日(日)にリフト付き観光バ



さあ！出発です！

スでお台場へ、総勢24名で出かけてまいりました。スマイルチャレンジウォークへの参加とオーラルピース・自主製品の販売が目的です。

スマイルチャレンジウォークとは、障害のある方もない方も一緒にウォーキングを楽しむというイベントです。私たちは2kmのコースに参加してきました。2班に分かれて時間差で出発し、お台場の海沿いを歩きました。平坦なスロープもある道なので車椅子の方も問題ありません。海風を感じながらゆつくりと…と思っていたのですが、ものすごい強風で必死に前へ進んだ道もありました(笑)。「あれが海のキリンだよ。(コンテナの積み下ろしを行うクレーン



販売もしっかりアピールします！

のことです)」なんておしゃべりをしながら、みんなで楽しく歩きました。ウォーキングの後は、広場に並ぶ屋台の一角に販売ブースを構え、オーラルピースと自主製品販売をがんばりました。いつもの販売会とは違う雰囲気をもつともせず、積極的にお客様とお話し、アピールする利用者さんの力を目の当たりにして、感心するやら、感動するやら。本当に経験を重ねるということは大きなことだなあとあらためて思いました。

ウォーキングや自主製品販売だけではなく、アクアシティに買い物に行ったり、ガンダムの写真を撮ったり、屋台で美味しいものを食べたりと、お台場でやりたいことを全部やっ

た！という一日。様々な色で咲き乱れるチューリップたちがとても印象的でした。

これからの余暇活動プログラムを通して、遊ぶ時は思い切り楽しく、働く時はしっかり集中して、オンとオフ、メリハリのある充実した生活が送れるよう支援していきたいと思っています。

最後になりましたが、このような機会をあたえてくださった株式会社トライフ様に心から感謝いたします。ありがとうございます。

副所長 満富正子

トコロ青葉ワークセンター

みんなで楽しく
フリスビーゲーム大会！

トコロ青葉ワークセンターでは、利用者の皆さんの余暇時間を充実させるため、月に一度のペースで「土曜プログラム」を実施しております。毎回20名ほどの参加者があり、大変好評をいただいている活動の一つです。このプログラムは、他部署からランダムに選ばれた3名の職員が企画を担当し、お手紙でご案内しております。

5月の土曜プログラムでは、「みんなで楽しくフリスビーゲーム大会」を開催しました。可愛らしいウサギ、カエル、イヌが大きく口を開けた箱を的に、リングやピザなどの食べ物が描かれたフリスビーを投げ入れるゲームです。今回はチーム戦ではなく個人戦で、一人20枚のフリスビーを投げていたとき、高得点を目指しました。ゲームが始まると、会場はすぐに熱気に包まれました。フリスビーが入るたびに上がる笑い声や歓声、連続で入れた方が何度もガッツポーズを決める姿は、見ているこちらにも思わず笑顔になりました。惜しくも入らなかった方や、緊張でなかなか思うように投げられない方には、周り



の方から温かい応援や励ましの声が送られ、2時間の間に様々なドラマが生まれました。

ゲーム終了後には、「〇〇さんが連続5回も入れてびっくりした!」思ったより緊張したけど、すごく楽しめた!」「最初はどんなゲームかと思ったけど、意外と盛り上がりすぎて面白かった!」といった嬉しい感想をたくさんいただきました。参加者の楽しそうな笑顔と温かい言葉は、担当職員にとって何よりの励みとなりました。当事業所では、これからも利用者の皆さんがいつもの職場の仲間と楽しい時間を過ごし、余暇を十分に満喫していただけるような活動を企画してまいります。今後も土曜プログラムにご期待ください。

事業課3係 川崎伸彦



トコロ情報処理センター

入職前後の振り返りと目標

2024年11月に入職しました職能開発室の今村と申します。インターネット検索で見つけた求人ではIT技術者在宅養成講座を知り、この事業に携わりたい一心で熱意が伝わるように応募フォームの入力を行いました。これまでに何度か転職をしましたが、今までで一番思いを込めた転職活動でした。

入職後は、年明けにIT技術者在宅養成講座の講師となるため指導いただきました。講習生が日々利用している学習サポートシステムの使い方や学習の流れ、IT資格試験対策やビジネスマナーを指導するときのポイントなど、様々なことを教えていただきました。月に2回ほど講習生のご自宅に何回巡回訪問については、なるべく多くの講習生の巡回に同行させていただきました。様々な困難を抱えながらも工夫してPCを操作し、学習を継続されている講習生と直接お会いして、ITスキルはもろろのこと、講習生一人一人の特性に合ったPCの使い方をアドバイスできるようにしたいと思い

ました。東京都障害者IT地域支援センターへ何度か足を運び、小型のキーボードや特殊なマウス、読み上げソフトなど多種多様な機器やソフトウェアがあることを知りました。視線入力での体験も行いました。使用するソフトウェアによって、きちんと休憩をとる必要があることを実感しました。ソフトスキルだけでなく仕事をを行う上で必要となる様々な知識を惜しむことなく教えていただき、お忙しい中でご指導くださった皆様には感謝するとともに、変化の速い時代において必要となってくる新しい知識分野や技術に対する興味と学ぶ姿勢を忘れることなく成長し、事業に貢献していく所存です。

2025年に入り2名の講習生を担当するところから始めました。春からは新たに学習を開始された新1年生2名を加えた計4名の講習生を担当しています。先日、講習生に講座修了時の姿を思い浮かべてもらい、そのための目標を立ててもらいました。希望と同時に多少の不安も抱えていることが窺えました。そんな講習生一人一人と真摯に向き合い、目標に向かってそれぞれにとって最善なあり方を一緒に考えていける講師になることが私の目標です。

職能開発室 今村英恵

東京都葛飾福祉工場

余暇プログラム「ボッチャ大会」

5月7日に余暇プログラムでボッチャ大会を開催しました。開催前から職員同士で「どうすれば利用者の方に楽しんでもらえるか」を第一に話し合いを重ね、当日の流れの確認や対戦表の作成などの準備を進めてきました。

当日は普段作業をしている部屋の机を動かして会場を準備し、職員も含め、1チーム3名の計6チームで総当たり戦を行いました。参加者はボッチャの経験がある方だけではなく、「ボッチャのボールを触るのも初めてです」という方もいる中でゲームが始まりましたが、どの利用者もボールを上手に投げることができると嬉しそうな表情をしていました。また、自分の番でなくても、他の方が良いコースに投げると「おお！」と歓声が上がリ、会場全体で盛り上がりを見せていました。

全てのチームが奮闘し、全試合を終えて結果を集計すると3チームの勝ち数が同数となり、急遽優勝決定戦を行いました。優勝決定戦では、着実に目標に向かって投げる方や一



発逆転を狙って思いっきり投げる方など、どの方も個性を出して活躍し、大盛り上がりでの試合となりました。

決勝戦終了後の閉会式では、優勝と準優勝のチームに賞品として、お菓子の詰合せを贈りました。その際に事前の職員の話し合いで出た「優勝チームから順番にくじを引き、引いた数字の書かれたものを賞品とするのかどうか」というアイデアを活かし、くじ引きで賞品を決めたところ、利用者の方も盛り上がりつつある様子が見られました。ボッチャ大会終了後に、利用者から「ボッチャイベントがあるとお仕事ももっと頑

張れそうです」という声も聞かれ、職員も嬉しい気持ちになりました。

普段の作業の中では見ることができない利用者の一面も見られ、とても充実した活動となりました。これから利用者の方が通所することが楽しみと思えるように職員で力を合わせて支援していきたいと考えています。

支援課 増尾拓郎

東京都大田福祉工場

創立50周年記念

デジタル事業開所式を開催

6月11日、「東京都大田福祉工場創立50周年記念 デジタル事業開所式」が、大森西区民センターで開催され、ご来賓や法人関係者など48名が出席しました。

式典冒頭では中村理事長が登壇し、法人が国立国会図書館蔵書デジタル化事業を立ち上げるにあたり、多くの苦労と努力を重ねながら事業を築いてきた経緯が報告されました。続いて湯浅より、創立50周年を迎えられたことへの関係者への感謝、工場これまでの歩み、そして新たに開始したデジタル事業の背景と意義について報告しました。

ご来賓祝辞では、参議院議員・山田太郎先生（障がい者所得倍増議員連盟）が、障害者の新たな職域開拓の必要性を国会で訴え、本事業の予算化に至った経緯を紹介され、大田区長 鈴木晶雅様からは、これまで培われてきた印刷事業の技術を活かし、障害者就労をさらに推進し、社会のデジタル化ニーズに応える工場としての活躍を期待するとの激励を頂戴しました。日本財団理事長 尾形武寿様からは、本事業推進に向けた財団職員の並々ならぬ努力や苦労話が紹介されるとともに、さらなる発展への期待と激励の祝辞を頂きました。

その後、ご来賓列席者の紹介、祝電の披露が行われ、国立国会図書館蔵書デジタル化事業について、吉田課長代理がプロジェクターを用いて動画・画像を交え多岐にわたる工程を分かりやすく解説。続いてコロニー東村山・システム開発担当の齋藤隆氏が、開発過程での工夫や苦労を



中村理事長挨拶



テープカットの様子

交えて挨拶しました。
さらに大田区公式キャラクター「はねぴょん」が登場し、会場の雰囲気をもたせました。従業員代表・野口リーダーからは「障害のある方々が安心して働ける環境づくり、スキルやキャリアアップ支援を全力で進める」との決意が述べられました。利用者代表の深澤さん、郡さんからは、日頃支えてくださる関係者への感謝の気持ちとともに、「デジタル技術を活用し、高品質な製品・サービス提供に努力する」との抱負が語られました。式典の締めくくりとして、中村理

事長、ご来賓、関係者によるテープカットが行われ、石垣副所長の閉会挨拶で盛況のうち



内覧(画像検査室)の様子

に終了しました。

その後、工場棟およ

びデジタル棟の内覧が実施されました。デジタル棟では吉田課長代理が、従業員が一頁一頁丁寧に行う事前検査、スキャン、画像検査などの工程について説明。見学者からは工程の大変さや高性能スキャナの精度に驚きの声が上がりました。天候は不安定で内覧終了時には大雨となりましたが、参加者の新事業への関心と期待の高さが感じられる一日となりました。

事業所長 湯浅克己

地域生活支援本部

グループホームの環境整備について

法人でいちばん新しいグループホーム

ム「青葉町グループホーム」も、開設して早6年が経ちました。月日が経つと、だんだんと修理・修繕が必要な箇所も出てきます。DIY (Do It Yourself) で対応できるところは、従業員が何とかしているのですが、ときどき修理・修繕が難しいこともあります。

そんな中、青葉町グループホームの1階、通称「あおばハウス」の脱衣室のドアとトイレのカギに不具合が出てしまいました。特にトイレのカギの不具合は、ドア内側の部品の不具合が原因で、最悪の場合、トイレから出ることができなくなるかと予想されました。内側からカギを開けられない場合は、他者が外側から開けることも可能とはいえ、言語でのコミュニケーションが苦手な方はパニックになりかねません。

やはり専門業者の修繕が必要と判断し、グループホームを作るときに協力していただいた工務店様に修理対応していただきました。お忙しいところ、迅速な対応をしていただいた株式会社エムアンドエムプロデュース様にはこの場を借りて御礼申し上げます。

他では、エントランスのカギの不具合や、水洗トイレの詰まり等、大小のトラブルがありました。入居者の皆さんが安心・安全にお過ごし



脱衣室のドアを修繕する様子

いただけるよう、お金がかかっても素早い対応を心掛けています。

これからはエアコンを多用するシーズンになります。梅雨や猛暑日はフル稼働しますので、ハードな使用に備えてクリーニングも必要です。こちらも、DIYでの対応は難しいので、業者さんに来ていただくことにしました。この号が出るころはクリーニングも終わり、快適な夏を過ごせるかと思っています。

このように、グループホームの環境整備も、従業員の業務の一端となっています。

青葉町グループホーム
課長 高塚孝太郎

2024（令和6）年度 事業報告

1. はじめに

本年度は、中期事業計画（2022年度～2026年度）の3年目であり、事業本部制廃止後の担当理事制として、感染予防対策を継続しながら平常時の事業運営に努めることとしました。

温暖化による気候変動やコロナ禍後の経済回復に伴う需要急増による原材料価格の上昇、海外における紛争、自国優先主義のリーダーの出現などにより、世界経済の不安定な状況はますます深刻化しています。加えて、4月から施行された障害福祉サービス報酬改定にも少なからず影響を受けることとなりました。

2024年元日に発生した能登半島地震災害ならびに9月に発生した豪雨災害には、日本障害フォーラムが設置した支援センターに支援希望者を募り6名を派遣しました。支援センターは2025年度9月までの継続が予定されていますので、引き続き支援員を募集しているところです。

2022年8月に実施された国連権利委員会によるわが国の審査に伴う総

括所見は、暮らしの場や教育の場、就労の場の分離された環境に懸念が示され、インクルーシブな社会への移行を示唆しています。当法人の事業は、障害者総合支援法を根拠とした事業ではありますが、常に「社会モデル」や「人権モデル」を意識して、とりわけ、虐待・ハラスメントなどの予防に注力し、虐待防止委員会や身体拘束適正化検討委員会などをつうじてより良い職場環境づくりを目指し、障害のある人の暮らしの向上に努力しています。引き続き、関係団体と連携して様々な課題に取り組んでいきます。

2. 法人全体の経営状況ならびに方針に対する運営結果

本年度の事業方針は中期事業計画の推進を柱に取組み、事業の結果は次のとおりとなりました。法人全体の事業活動計算書における当期活動増減差額は158,288千円を計上し、貸借対照表における純資産は7,262,083千円、事業活動計算書における当期繰越活動増減差額は4,612,77

3千円となりました。

在籍者の推移では表2に示すとおり、総人数914名（前年度末904名）で10名増（非常勤嘱託医を含まない）、内障害者は621名（前年度末616名）で5名増、障害者比率は67・9%（前年度末68・1%）となりました。期中の就労移行者は、福祉サービス事業以外の移行者を加えて、55名を送り出しました。法人全体の在籍者は、契約者・登録者（表2…参考資料）1,741名を加えると2,655名の人達に責任を負う組織となりました。

(1) 経営の基本方針

・経営理念や倫理、社会的役割に伴うコンプライアンスやガバナンスを重んじた法人運営に努め、福祉サービスの質的向上のために、第三者サービス評価機関の審査を受審し、苦情解決制度の継続や広報誌やホームページ等による情報開示に取り組みました。

・活動の視野を広く持ち、SDGsや国際交流などにもつながる活動を推進しています。

SDGsパートナーシップを結んでいる機関で開催された交流会では、書籍デジタル化事業ならびに低カリウム水耕栽培の取組などを発表しました。

(2) 法律・施策等改定への対応

・法改正や業務改善などに伴う法人の規程等を必要に応じて改定しました。

・改正障害者総合支援法に伴う障害福祉サービス報酬改定や、東京都サービス推進費や障害者雇用調整金の改定などに注視して適宜対応しました。

(3) 財務・資金管理

・会計顧問の指導を受けながら、会計基準により精度の高い管理に努め、さらに外部会計監査人の指導をつうじて会計管理に反映させました。

・財務や資金管理について、法人本部が拠点間の窓口となって調整しました。各拠点の資金繰り状況を定期的に把握して対応するとともに常務会等で共有しました。

(4) 事業の継続

・経営改善に視点を置き、持続可能な事業への体質改善に努力しました。

- ・各拠点では適宜BCPの見直しを実施しました。
- ・今後の障害者福祉の動向などに注力し、他の団体等とも連携して活動することで事業継続の必要性の認識を高めました。
- (5)人材確保・育成
 - ・求人広告をホームページや求人媒体に掲載して人材確保に努め、人材育成には、経営や福祉の専門性を向上することを目的とした教育・研修を計画し、対面や必要に応じてオンライン等を活用して実施しました。具体的には、例年通り新人研修を実施したほか、上半期では、新たに入職1年から5年の従業員を対象に、キャリア支援セミナー・キャリアコンサルティング面談を実施し、下半期には、管理職を対象に「私たちの理想の未来とは何か、今こそ変えるべき現実とは何か」をテーマにマネジメント研修を実施しました。
 - ・人事考課制度を活用して上長との面談等をつうじて風通しの良い職場環境づくりに努め、一人ひとりの活躍の場の充実を目指しました。
 - ・世代交代を視野に人材確保・育成、引き継ぎ等に継続して取り組んでいます。7月には所長級人事異動を実施し、管理・監督職も積極的に起用することとしています。

(6)他の団体との協力連携

- ・障害者福祉の向上のために、各省庁ならびに、東京都、各区市自治体、全国社会福祉協議会、東京都社会福祉協議会、一般社団法人ゼンコロ、特定非営利活動法人日本障害者協議会、全国社会就労センター、日本セルプセンター、東京都セルプセンターなどにおいて積極的に役割を果たしました。また、従業員等が、対外的な立場において充分に役割発揮ができるように、可能な限り配慮し支援しました。

(7)地域活動

- ・拠点ごとの地域活動においては、各自治体との連携を深め情報交換を密にしなが、地域福祉の向上ならびにニーズに応じた障害者福祉の充実に努めました。地域の障害者自立支援協議会や福祉関連ネットワークには積極的に参画し、重要な社会資源になり得ることを目指しました。

3. 各拠点の事業運営概要

前年度中に事業本部制廃止に伴う規程等の見直しや拠点のあり方などを整理し、4月から担当理事制による運営を開始しました。期中の各拠点の事業概要は下記のとおりとなりました。

(1)法人本部(事務局)

法人全体および法人内の各事業が

抱える諸課題への対応、事業運営における改善などにおいて役割を果たしました。事務統合はトータル情報処理センターの事務担当者を法人本部に異動し、担当理事制では理事一人ひとりが担当事業所に責任をもち、中期事業計画の各課題達成に取り組みました。年度替わりのところで、事務局次長を事務局長に昇格させ世代交代を図りました。プライバシーマークは8回目の更新審査を受け認可されました。

(2)地域生活支援本部(グループホーム・生活支援等)

コロニー中野の所長兼務で管理・運営し、地域生活を支援する事業として、グループホーム、短期入所、居宅介護事業等、特定相談支援事業を運営しました。グループホームにおいては、新型コロナウイルス感染により一部で小規模なクラスターが発生し、加えて、入居者の体調不良や転倒などによる入院が相次ぎ、緊急対応を行う場面もありました。報酬改定では、グループホーム事業において支援区分6以下の基本単価が引き下げられたことにより、資金面では厳しい状況が続きました。

(3)トータル情報処理センター(事業部、デジタルメディアセンター)

事業部とデジタルメディアセンターを統合し、会計上は事業部に集約して一本化を図り、二つを部門で管理しま

した。法人内のIT部門として、基幹システムの安定稼働の維持や、ネットワークを介して横断的に各事業所の要望事項に対応しました。営業活動では、既存顧客の自治体受託業務や入力業務、システム開発業務全般などの受注確保に努力しましたが、厳しい状況は続いています。従業員の人材確保は外部の協力も求めて継続しており、人材教育・育成では、リモートによる研修やセミナーへの参加を促すなど継続的な課題として取り組みました。次年度に予定している職能開発室の統合についても準備を進めました。

(4)職能開発室

トータル情報処理センターへの統合を視野に、教育事業に新しく従業員を配置し世代交代を進めるとともに、講習生の募集過程等も見直しました。事務局の法人本部への異動やデジタルメディアセンター従業員の勤務地の移動(もみじやま)など、事務所の環境変化やそれにとまう諸々の事情もありましたが、従業員全体で業務に取り組みました。東京都障害者IT地域支援センター事業は本年度で受託を終了することとし、多くの方の協力を得て、次年度の受託団体に引き継ぎました。

(5)コロニー中野

就労移行支援事業を廃止し、就労継続支援A型事業10名、就労継続支援B

型事業56名、生活介護事業14名の合計80名定員で運営しました。報酬改定においては、生活介護事業での影響を見込み、定員以上の利用者の受け入れに努力しました。就労支援事業では、飲食事業ならびに中野区庁舎内の印刷室事業で前年度実績を上回ることができ、福祉サービ事業では、施設の見学や実習を積極的に受け入れたことで新規利用につながりました。レクリエーションプログラムは継続して実施し、中野区内社会福祉法人等連絡会において、フードパントリー事業や子ども子育て応援プロジェクトなどで活動し、地域福祉の向上に努めました。

(6) 中野区仲町就労支援事業所

次年度が3期目の指定管理受託最終年度となりますが、中野区との基本協定、管理運営業務に関する協定を遵守し、個々のニーズに対応した支援内容の充実に取り組み、感染予防対策も継続して運営しました。利用定員は充足しているものの半数以上が週3日程度以下の通所状況であるため、きめ細かい支援に努力することで1日当たりの利用者数は徐々に増加しています。支援の質の向上に反映させるため福祉サービス第三者評価を受審しました。

(7) コロニー東村山

就労支援事業の印刷事業・デジタル化事業において積極的に営業活動を

展開しましたが、売上高が伸び悩み目標に届きませんでした。特に印刷事業の厳しさは年々増しており、デジタル化事業でも大型案件の受託が獲得できず厳しい結果となりました。障害福祉サービ事業においては、就労移行支援事業は期中に新たな新規の利用者はなく、就労継続支援B型事業からの利用変更の可能性を視野に事業を継続しています。事業所全体では、依然として定員割れが続いており課題を残しました。

(8) トーコロ青葉ワークセンター

就労支援事業の売上、障害福祉サービ事業収入ともに前年実績を上回りました。放課後等デイサービスは、質の高いサービを実施するため都型放課後等デイサービスを申請し認可されました。余暇プログラムなどは徐々に再開し、放課後等デイサービスとトーコロ青葉ワークセンター合同による企画を実施するなど交流を図りました。また、「食事と生演奏の音楽を楽しむ」イベントや、青葉祭では「手作り巨大ジェンガと風船バレー」を行うなど、楽しめるプログラムの充実を目指しました。

(9) コロニーもみじやま支援センター

感染予防対策を継続しながら日常に近い活動環境を提供して個別支援に努めました。就労支援事業の売上は特

に軽作業において停滞気味であり、より高い工賃支給のためには新たな事業展開を模索する必要があります。福祉サービ事業においては、報酬改定の影響などを踏まえて、利用率の向上と1日当たりの利用人数に着目した支援を展開した結果、就労継続支援B型事業、生活介護事業、短期入所ともに高い利用率を確保することができました。

(10) 東京都葛飾福祉工場

移転新築した立石工場は、近隣住民との関係を構築して地域に根ざした運営に努力しました。就労支援事業では、各事業部門が目標に向けて努力した結果、前年度を上回る結果を残すことができました。就労移行支援事業は定員充足に苦労しましたが、就労継続支援B型事業では、立石工場の新しい環境により多くの見学や実習につなげることができました。就労継続支援A型事業では、長期休職者の職場復帰に向けた支援を継続しています。在宅就労支援では、制作活動のほか、顧客への販売促進および対外的なイメージアップにも貢献しています。事業所の行事である研修旅行や交友会主催の忘年会は感染予防対策を徹底したうえで開催し、各種プログラム（いちご狩り、食事会等）を実施するなど、余暇活動の充実に努めました。

(11) 東京都大田福祉工場

印刷事業の売上高は減収となりましたが、内製化などに努力したことで加工高比率は微増しました。次年度から開始予定の日本財団助成による書籍デジタル化事業に向けて、人材教育・研修、設備整備などの準備を進めました。障害福祉サービ事業では報酬改定の効果もあり対前年比で増収となりました。本年度は、大田区内の高齢者支援法人と協働して若年性認知症の方への支援など地域連携にも努めています。身体拘束適正化、虐待防止、ハラスメント防止などの人権にかかわる重要課題、ならびに感染症対策、災害対策、安全衛生に向けた活動について事業所全体で取り組みました。本年度で50周年の節目を迎え、改めて様々なご支援に感謝し、これからも障害者が活動の中心を担う事業所として努力していきます。



表1. 補助事業および補助金による施設設備等整備事業報告

(1) 補助事業（順不同）

組織名	事業内容（事業所名）	補助金
東京都	重度身体障害者在宅パソコン講習事業 （トーコロ情報処理センター職能開発室）	5, 8 8 8 千円
三菱商事株式会社	重度身体障害者在宅パソコン講習事業 （トーコロ情報処理センター職能開発室）	5, 0 0 0 千円
沖電気工業株式会社	重度身体障害者在宅パソコン講習事業 （トーコロ情報処理センター職能開発室）	8 0 0 千円
公益財団法人 日本社会福祉弘済会	2024年度es-teamミーティング開催 （研修事業）（東京都葛飾福祉工場）	6 7 千円

(2) 補助金・寄付金による施設設備等整備（順不同）

組織名	整備内容（事業所名）	補助金
社会福祉法人 東京都共同募金会	利用者PCモニター5台 （トーコロ青葉ワークセンター）	5 0 千円
	ドラム式洗濯機（えはらハイツⅠ）	9 0 千円
	全自動洗濯機（えはらハイツⅡ）	6 0 千円
	衣類乾燥機（中野江原短期入所）	4 0 千円
	ガスオーブン、捏ね機 （コロニーもみじやま支援センター）	1 7 0 千円

表2. 在籍者の推移

2024(令和6)年4月1日から 2025(令和7)年3月31日まで

(単位：人)

	前年度末 在籍者数	期中増減				主な減員理由			年度末 在籍者数
		増員		減員		自己都合	一般就労	疾病、 その他	
雇 用 就 労 者	95	3	(0)	7	(0)	5	1	1	91
	(81)	(3)	(0)	(6)	(0)	(5)	(1)	(0)	(78)
事業・施設の利用者	435	32	(0)	35	(0)	27	6	2	432
そ の 他	86	25	(0)	13	(0)	2	0	10	98
障害がある在籍者（計）	616	60	(0)	55	(0)	34	7	13	621
	(81)	(3)	(0)	(6)	(0)	(5)	(1)	(0)	(78)
障害がない在籍者	288	48	(5)	43	(5)	27	0	11	293
合 計	904	108	(5)	98	(5)	61	7	24	914
	(81)	(3)	(0)	(6)	(0)	(5)	(1)	(0)	(78)

(注) 1) A型従業員については、障害がある雇用就労者に含めた上で下段の () で再掲している。

2) 増員および減員の各右欄には法人内異動を () で表記している。

3) 「その他」にはグループホーム利用者・在宅パソコン講習生・放課後等デイサービス利用者・定着支援利用者を含む。

4) 在籍者数には非常勤嘱託医を含まない。

5) 前年度末在籍者数は、計上誤りにより前年度資料から「障害のある在籍者」の「その他」を7名マイナスしている。

表2. 参考資料；「在籍者の推移」に含まれない人員状況

2024年度末及び2024年度中人数

(単位：人)

	登録・契約障害者	一般就職者	トライアル 雇用者等	一般就職者累計
地域生活支援本部 (短期入所、移動支援、居宅介護等)	236	—	—	
中野障害者計画相談支援室 「ころまっぷ」	*1 133	—	—	
職能開発室 (在宅教育修了生、職業紹介登録者等)	14	*2 2	0	
東村山市障害者就労支援室	708	46	0	
コロニー障害者計画相談支援室 「ふきのとう」	*1 163	—	—	
アートビリティ	*3 200	—	—	
東京都葛飾福祉工場 障害者計画相談支援室	*1 42	—	—	
コロニーもみじやま支援センター (短期入所、日中一時支援)	179	—	—	
もみじやま障害者計画相談室	*1 66	—	—	*4 858
計	1,741	48	0	

*1 計画相談契約者数

*2 在宅教育修了者からの一般雇用 1人、職業紹介事業からの一般雇用1人

*3 契約者以外の作品利用が行われた数も含めているため概数としている。

*4 在籍者以外で2007.4～2025.3に当法人で就職をサポートした人の累計

表3. 障害・非障害者及び男女別総括表 (人)

2025年3月31日現在

事業所名	①身体 障害者	②知的 障害者	③精神 障害者	④その他 障害者	⑤非障 害者	①+②+③+④+⑤ 総人員(人)	男女別人員(人)		平均年齢・在籍	
							男	女	年齢(才)	在籍(年)
法人本部					6	6	2	4	53.8	19.8
地域生活支援本部	6	39	0	0	19	64	47	17	52.1	10.9
トーコロ情報処理センター	6		1		16	23	6	17	48.6	17.7
職能開発室 (含：事務局)	10				2	12	8	4	35.4	1.9
コロニー中野	22	35	22		26	105	70	35	50.2	11.4
中野区仲町就労支援事業所			26	7	7	40	24	16	50.5	6.3
コロニー東村山	21	36	16	2	60	135	92	43	44.8	10.6
トーコロ青葉ワークセンター	11	62	27	34	28	162	111	51	36.3	9.1
コロニーもみじやま支援センター	7	80	3	1	31	122	63	59	43.3	7.5
東京都葛飾福祉工場	27	24	8		58	117	69	48	45.4	14.9
東京都大田福祉工場	27	26	35		40	128	92	36	48.4	8.9
計	137	302	138	44	293	914	584	330	45.1	10.3

表４－１．就労移行支援事業および就労継続支援Ｂ型事業

定員・現員ならびに工賃と就労移行の状況（2024年４月～2025年３月）

事業所名	サービス名	定員 (人)	現員 (人)	平均工賃 (円/1人1ヶ月当)	一般企業等へ の移行（人）
コロニー中野	就労継続Ｂ型	56	45.0	37,027	0
中野区仲町就労支援事業所	就労移行	6	0.0	-	0
	就労継続Ｂ型	21	15.0	38,728	2
コロニー東村山	就労移行	6	0.0	-	0
	就労継続Ｂ型	59	57.8	34,632	0
トーコロ青葉ワークセンター	就労移行	6	0.8	17,046	0
	就労継続Ｂ型	83	71.6	36,269	1
コロニーもみじやま支援センター	就労移行	6	0.0	-	0
	就労継続Ｂ型	64	54.8	19,484	0
東京都大田福祉工場	就労移行	6	2.4	48,141	2
	就労継続Ｂ型	42	33.6	55,875	0
東京都葛飾福祉工場	就労移行	6	0.7	18,292	0
	就労継続Ｂ型	34	22.6	30,981	1
サービス別計	就労移行	36	3.8	37,363	2
	就労継続Ｂ型	359	300.0	34,970	4
総 計（平均）		395	303.8	35,000	6

＊現員は年間をととしての平均現員。

＊平均工賃は賞与、交通費等、本人に支払った全ての金額を工賃と見なし、
その総額÷１日あたりの平均利用者数÷12か月で算出している。
(2024年報酬改定に準ずる)

＊「一般企業等への移行」欄にはＡ型雇用への移行を含む。

表４－２．就労継続支援Ａ型事業

定員・現員ならびに賃金の状況

(2024年４月～2025年３月)

事業所名	定員（人）	現員（人）	平均賃金 (円/1人1ヶ月当)
コロニー中野	10	4.7	263,991
コロニー東村山	15	13.8	230,198
東京都大田福祉工場	32	32.5	343,882
東京都葛飾福祉工場	40	23.8	358,013
総計（平均）	97	74.8	322,384

＊平均賃金には、各種手当、賞与を含む（交通費は除く）。

表４－３．生活介護事業

定員・現員ならびに工賃の状況

(2024年４月～2025年３月)

事業所名	定員（人）	現員（人）	平均工賃 (円/1人1ヶ月当)
コロニー中野	14	11.9	19,435
コロニーもみじやま支援センター	30	20.8	7,296
トーコロ青葉ワークセンター	6	3.3	19,187
総計（平均）	50	35.9	12,433

＊平均工賃は賞与、交通費等、本人に支払った全ての金額を工賃と見なし、その平均額を算出。

表５．福祉サービス 苦情申出状況（2024年４月～2025年３月）

2024(令和6)年4月1日から2025(令和7)年3月31日まで

(単位：件)

事業所	申出件数	申出内訳				解決状況			
		対事業所	対従業員	利用者間	その他	事業所内 解決	(第三者委 員関与)	未解決	その他
法人本部	0	0	0	0	0	0	(0)	0	0
地域生活支援本部	0	0	0	0	0	0	(0)	0	0
職能開発室	0	0	0	0	0	0	(0)	0	0
コロニー中野	0	0	0	0	0	0	(0)	0	0
中野区仲町就労支援事業所	2	1	1	0	0	1	(1)	1	0
コロニー東村山	0	0	0	0	0	0	(0)	0	0
トーコロ青葉ワークセンター	0	0	0	0	0	0	(0)	0	0
コロニーもみじやま支援センター	0	0	0	0	0	0	(0)	0	0
東京都大田福祉工場	0	0	0	0	0	0	(0)	0	0
東京都葛飾福祉工場	0	0	0	0	0	0	(0)	0	0
合 計	2	1	1	0	0	1	(1)	1	0

社会福祉法人名 社会福祉法人 東京コロニー
拠点名 合算

第一号第一様式（第十七条第四項関係）

法人単位資金収支計算書
（自）2024年 4月 1日 （至）2025年 3月31日

（単位：円）

勘定科目		予算(A)	決算(B)	差異(A)-(B)	
事業活動による収支	収入	就労支援事業収入	4,984,103,000	5,161,867,724	-177,764,724
		障害福祉サービス等事業収入	1,323,540,020	1,368,139,955	-44,599,935
		その他の事業収入	182,194,909	186,996,562	-4,801,653
		経常経費寄附金収入	8,399,000	9,128,203	-729,203
		受取利息配当金収入	1,033,140	2,304,886	-1,271,746
		その他の収入	47,566,967	38,671,620	8,895,347
		事業活動収入計(1)	6,546,837,036	6,767,108,950	-220,271,914
	支出	人件費支出	1,041,494,926	1,046,210,686	-4,715,760
		事業費支出	110,037,839	104,734,835	5,303,004
		事務費支出	253,513,066	211,381,075	42,131,991
		就労支援事業支出	4,805,438,963	5,008,099,056	-202,660,093
		その他の支出	159,091,129	157,404,825	1,686,304
		利用者負担軽減額	8,749,895	8,410,336	339,559
		支払利息支出	8,852,659	8,734,566	118,093
その他の支出	6,231,261	5,756,688	474,573		
事業活動支出計(2)	6,393,409,738	6,550,732,067	-157,322,329		
事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)		153,427,298	216,376,883	-62,949,585	
施設整備等による収支	収入	施設整備等補助金収入	90,000	1,162,620	-1,072,620
		施設整備等寄附金収入		286,015	-286,015
		固定資産売却収入		2,889,375	-2,889,375
		その他の施設整備等による収入	24,000	87,300	-63,300
		施設整備等収入計(4)	114,000	4,425,310	-4,311,310
	支出	設備資金借入金元金償還支出	25,956,000	25,956,000	
		固定資産取得支出	103,413,034	75,394,449	28,018,585
		ファイナンス・リース債務の返済支出	2,738,240	2,288,880	449,360
		その他の施設整備等による支出	5,694,024	6,435,062	-741,038
		施設整備等支出計(5)	137,801,298	110,074,391	27,726,907
施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)		-137,687,298	-105,649,081	-32,038,217	
その他の活動による収支	収入	積立資産取崩収入	19,311,000	23,390,055	-4,079,055
		その他の活動による収入		503,654	-503,654
		その他の活動による収入計(7)	19,311,000	23,893,709	-4,582,709
	支出	積立資産支出	115,341,439	90,141,439	25,200,000
		その他の活動による支出	745,600	601,056	144,544
		その他の活動支出計(8)	116,087,039	90,742,495	25,344,544
		その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)	-96,776,039	-66,848,786	-29,927,253
予備費支出(10)		92,882,888	—	5,963,961	
当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)		-87,000,000	43,879,016	-130,879,016	
前期末支払資金残高(12)		2,759,903,148	2,759,903,148		
当期末支払資金残高(11)+(12)		2,672,903,148	2,803,782,164	-130,879,016	

（注）予備費支出-86,918,927円は以下の通り充当使用した額である。

【事業活動支出】

人件費支出	7,648,661円
事業費支出	1,129,478円
事務費支出	3,208,596円
就労支援事業費支出	22,069,717円
その他の支出	1,081,994円
利用者負担軽減額	198,895円
支払利息支出	632,659円
その他の支出	165,035円

【施設整備等支出】

固定資産取得支出	2,681,829円
その他の施設整備等支出	3,415,024円

【その他活動支出】

積立資産支出	44,641,439円
その他活動支出	45,600円
合計	86,918,927円

社会福祉法人名 社会福祉法人 東京コロニー
拠点名 合算

第二号第一様式（第二十三条第四項関係）

法人単位事業活動計算書
(自) 2024年 4月 1日 (至) 2025年 3月31日

(単位：円)

勘定科目		当年度決算(A)	前年度決算(B)	増減(A)-(B)
サービス活動増減の部	収益			
	就労支援事業収益	5,161,867,724	4,729,735,792	432,131,932
	障害福祉サービス等事業収益	1,368,162,305	1,266,529,162	101,633,143
	その他の事業収益	186,996,562	173,611,557	13,385,005
	経常経費寄附金収益	9,128,203	9,358,785	-230,582
	サービス活動収益計(1)	6,726,154,794	6,179,235,296	546,919,498
	費用			
	人件費	1,037,692,613	904,599,954	133,092,659
	事業費	104,734,835	101,562,851	3,171,984
	事務費	212,038,679	201,196,539	10,842,140
	就労支援事業費用	5,013,113,493	4,685,634,783	327,478,710
	その他の費用	159,981,373	156,229,682	3,751,691
	利用者負担軽減額	8,410,336	8,439,117	-28,781
	減価償却費	165,367,346	160,506,281	4,861,065
	国庫補助金等特別積立金取崩額	-118,004,071	-119,998,263	1,994,192
	サービス活動費用計(2)	6,583,334,604	6,098,170,944	485,163,660
	サービス活動増減差額(3)=(1)-(2)	142,820,190	81,064,352	61,755,838
サービス活動外増減の部	収益			
	受取利息配当金収益	2,304,886	1,063,524	1,241,362
	その他のサービス活動外収益	34,759,492	25,411,202	9,348,290
	サービス活動外収益計(4)	37,064,378	26,474,726	10,589,652
	費用			
	支払利息	8,734,566	6,390,929	2,343,637
	その他のサービス活動外費用	5,756,688	6,648,269	-891,581
	サービス活動外費用計(5)	14,491,254	13,039,198	1,452,056
	サービス活動外増減差額(6)=(4)-(5)	22,573,124	13,435,528	9,137,596
経常増減差額(7)=(3)+(6)		165,393,314	94,499,880	70,893,434
特別増減の部	収益			
	施設整備等補助金収益	1,162,620	3,828,000	-2,665,380
	施設整備等寄附金収益	286,015	532,486	-246,471
	固定資産売却益	958,588	1,667,508	-708,920
	その他の特別収益		583,519	-583,519
	特別収益計(8)	2,407,223	6,611,513	-4,204,290
	費用			
	固定資産売却損・処分損	7,203,135	35,638	7,167,497
	国庫補助金等特別積立金積立額	2,240,620	3,000,000	-759,380
	その他の特別損失	67,950	150,278	-82,328
	特別費用計(9)	9,511,705	3,185,916	6,325,789
	特別増減差額(10)=(8)-(9)	-7,104,482	3,425,597	-10,530,079
税引前当期活動増減差額(11)=(7)+(10)		158,288,832	97,925,477	60,363,355
法人税、住民税及び事業税(12)				
法人税等調整額(13)				
当期活動増減差額(14)=(11)-(12)-(13)		158,288,832	97,925,477	60,363,355
繰越活動増減差額の部	前期繰越活動増減差額(15)	4,535,984,428	3,872,226,101	663,758,327
	当期末繰越活動増減差額(16)=(14)+(15)	4,694,273,260	3,970,151,578	724,121,682
	基本金取崩額(17)			
	その他の積立金取崩額(18)		629,332,850	-629,332,850
	その他の積立金積立額(19)	81,500,000	63,500,000	18,000,000
	次期繰越活動増減差額(20)=(16)+(17)+(18)-(19)	4,612,773,260	4,535,984,428	76,788,832

法人単位貸借対照表
2025年 3月31日現在
第三号第一様式（第二十七条第四項関係）

資 産 の 部			負 債 の 部			(単位：円)	
	当年度末	前年度末		当年度末	前年度末	増	減
流動資産	4,689,038,379	4,852,843,323	流動負債	1,766,111,193	2,018,106,960	-251,995,767	
現金預金	2,577,159,330	2,796,328,075	短期運営資金借入金	400,000,000	400,000,000		
事業未収金	1,654,688,714	1,610,308,767	事業未払金	933,237,333	1,209,858,056	-276,620,723	
未収金	13,462,522	63,237,151	その他の未払金	40,082,482	72,588,546	-32,506,064	
未収補助金	6,654,653	8,613,281	1年以内返済予定設備資金借入金	25,956,000	25,956,000		
受取手形	25,047,592	21,240,103	1年以内返済予定長期運営資金借入金	1,595,000		1,595,000	
電子記録債権	49,892,964	51,282,225	1年以内返済予定リース債務	2,288,880	2,288,880		
貯蔵品	3,572,458	2,902,595	1年以内支払予定長期未払金	2,433,252			
商品・製品	312,963,188	247,046,208	未払費用	71,082,481	65,016,571	396,339	
仕掛品	14,219,426	18,295,765	預り金	15,886,540	17,777,196	-1,890,656	
原材料	13,273,477	14,788,192	職員預り金	10,610,809	19,056,974	-8,446,165	
立替金	6,371,348	7,000,316	前受金	4,978,765	13,361,741	-8,382,976	
前払費用	13,441,895	13,522,942	賞与引当金	190,656,789	175,513,736	15,143,053	
徴収不能引当金△	1,709,188	1,722,297	未払税金等	67,302,862	14,652,347	52,650,515	
固定資産	4,967,641,556	5,096,996,948	固定負債	628,485,650	687,007,694	-58,522,044	
基本財産	3,480,960,852	3,636,106,481	設備資金借入金	263,066,000	289,022,000	-25,956,000	
土地	812,128,671	812,128,671	長期運営資金借入金	28,405,000	30,000,000	-1,595,000	
建物	4,337,665,151	4,336,415,151	リース債務	6,791,180	9,080,060	-2,288,880	
建物減価償却累計額△	1,668,832,970	1,512,437,341	退職給付引当金	322,167,122	353,392,464	-31,225,342	
その他の固定資産	1,486,680,704	1,460,890,467	役員退職慰労引当金	3,484,374	3,484,374		
土地	298,950,200	298,950,200	長期未払金	4,571,974	2,028,796	2,543,178	
建物	754,786,874	779,458,383	負債の部合計	2,394,596,843	2,705,114,654	-310,517,811	
機械及び装置	165,917,945	170,313,078	純 資 産 の 部				
車輦運搬具	712,241,393	797,660,476	基本金	300,915,620	300,915,620		
器具及び備品	50,218,346	50,868,346	国庫補助金等特別積立金	2,005,032,239	2,145,963,596	-140,931,357	
建設仮勘定	374,565,606	382,695,172	国庫補助金等特別積立金	2,005,032,239	2,145,963,596	-140,931,357	
建物減価償却累計額△	30,000		その他の積立金	343,361,973	261,861,973	81,500,000	
構築物減価償却累計額△	505,324,826	507,662,719	その他の積立金	261,500,000	180,000,000	81,500,000	
機械及び装置減価償却累計額△	94,174,888	89,062,876	移行時特別積立金	81,861,973	81,861,973		
車輦運搬具減価償却累計額△	632,391,150	687,529,404	次期繰越活動増減差額	4,612,773,260	4,535,984,428	76,788,832	
器具及び備品減価償却累計額△	49,855,044	49,677,196	次期繰越活動増減差額	4,612,773,260	4,535,984,428	76,788,832	
権利	277,616,578	283,752,850	(うち当期活動増減差額)	158,288,832	97,925,477	60,363,355	
ソフトウェア	16,500	16,500					
退職給付引当資産	42,930,102	20,752,483					
その他の積立資産	294,780,576	309,529,192					
差入保証金	342,361,973	260,861,973					
長期前払費用	2,167,430	2,167,430					
その他の固定資産	5,444,745	2,470,779					
徴収不能引当金△	2,217,840	3,446,840					
資産の部合計	9,656,679,935	9,949,840,271	負債及び純資産の部合計	7,262,083,092	7,244,725,617	17,357,475	
			純資産の部合計	9,656,679,935	9,949,840,271	-293,160,336	

社会福祉法人名 社会福祉法人 東京コロニー
拠点名 合算

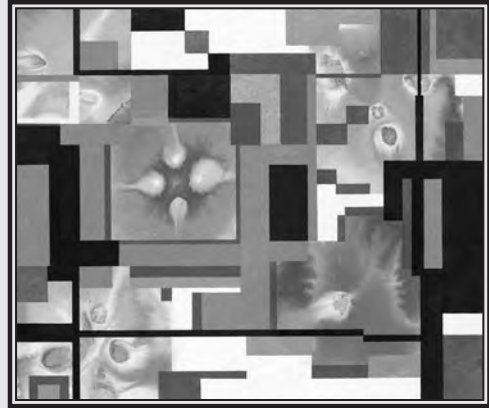
別紙4

財 産 目 録
2025年 3月31日 現在

(単位：円)

貸借対照表科目	場所・物量等	取得年度	使用目的等	取得価額	減価償却累計額	貸借対照表価額
I 資産の部						
1 流動資産						
現金預金		—	運転資金等	—	—	2,577,159,330
事業未収金		—	就労支援事業及び障害福祉サービス事業	—	—	1,654,688,714
未収金		—	就労支援事業及び障害福祉サービス事業	—	—	13,462,522
未収補助金		—	都加算等	—	—	6,654,653
受取手形		—	就労支援事業	—	—	25,047,592
電子記録債権		—	就労支援事業	—	—	49,892,964
貯蔵品		—	【控除対象】切手等	—	—	3,543,057
		—	【控除非対象】公益事業	—	—	29,401
			小計			3,572,458
商品・製品		—	社会福祉事業による物品販売業及び印刷業等	—	—	312,963,188
仕掛品		—	【控除対象】社会福祉事業による印刷業等	—	—	14,219,426
原材料		—	社会福祉事業による印刷業等	—	—	13,273,477
立替金		—	郵便、発送代金等	—	—	6,371,348
前払費用		—	保険料等	—	—	13,441,895
徴収不能引当金△		—	社会福祉事業に係る得意先等	—	—	1,709,188
流動資産合計						4,689,038,379
2 固定資産						
(1) 基本財産						
土地	(福祉事業本部) 東久留米市氷川台2-31-22 (コロニー中野) 中野区江原町2-6-7 (コロニー東村山) 東村山市秋津町2-22-9 (青葉ワークセンター) 東村山市青葉町2-39-10	— — — —	社会福祉事業であるグループホームに使用している 社会福祉事業である就労支援事業に使用している 社会福祉事業である就労支援事業に使用している 社会福祉事業である就労支援事業に使用している	— — — —	— — — —	110,701,020 147,823,591 398,000,000 155,604,060
			小計			812,128,671
建物	(福祉事業本部) 東久留米市氷川台2-31-22 (コロニー中野) 中野区江原町2-6-7 (コロニー東村山) 東村山市秋津町2-22-9 (コロニー東村山) 東村山市秋津町2-22-9 (コロニー東村山) 東村山市秋津町2-24-8 (青葉ワークセンター) 東村山市青葉町2-39-10 (もみじやま支援センター) 中野区中野5-3-32 (東京都葛飾福祉工場) 葛飾区金町2-8-20 (東京都葛飾福祉工場) 葛飾区金町2-9-5 (東京都葛飾福祉工場) 葛飾区立石3-10-18 (東京都葛飾福祉工場) 葛飾区立石3-10-18 (東京都大田福祉工場) 大田区大森西2-22-26 (東京都大田福祉工場) 大田区大森西2-22-26	2002 2017 1974 1982 2002 1990 2017 2016 2015 2023 2024 2018 2021	社会福祉事業であるグループホームに使用している 社会福祉事業である就労支援事業に使用している 社会福祉事業である就労支援事業に使用している 社会福祉事業である就労支援事業に使用している 社会福祉事業である就労支援事業に使用している 社会福祉事業である就労支援事業に使用している 社会福祉事業である就労支援事業に使用している 社会福祉事業である就労支援事業に使用している 社会福祉事業である就労支援事業に使用している 社会福祉事業である就労支援事業に使用している 社会福祉事業である就労支援事業に使用している 社会福祉事業である就労支援事業に使用している 社会福祉事業である就労支援事業に使用している	66,059,195 481,286,351 133,107,474 91,300,000 192,950,780 616,488,760 652,723,007 403,930,843 311,428,351 677,160,399 1,250,000 632,216,009 77,763,982	40,218,500 146,000,295 133,107,473 85,821,998 104,193,402 484,562,418 229,986,624 130,240,132 111,505,415 27,161,578 86,979 165,001,587 10,946,569	25,840,695 335,286,056 1 5,478,002 88,757,378 131,926,342 422,736,383 273,690,711 199,922,936 649,998,821 1,163,021 467,214,422 66,817,413
			小計			2,668,832,181
基本財産合計						3,480,960,852
(2) その他の固定資産						
土地	埼玉県八潮市2-1031-1	—	社会福祉事業である就労支援事業に使用している	—	—	298,950,200
建物	(福祉事業本部) 東久留米市氷川台2-31-22他 (コロニー中野) 中野区江原町2-6-7 (コロニー東村山) 東村山市秋津町2-22-9他 (青葉ワークセンター) 東村山市青葉町2-39-10他 (もみじやま支援センター) 中野区中野5-3-32 (もみじやま支援センター) 中野区中野5-3-32 (東京都葛飾福祉工場) 葛飾区金町2-8-20他 (東京都大田福祉工場) 大田区大森西2-22-26他 (トコロ情報処理センター)	— — — — — — — — —	【控除対象】社会福祉事業に使用している建物付属設備 【控除対象】社会福祉事業に使用している建物付属設備 【控除対象】社会福祉事業に使用している建物付属設備 【控除対象】社会福祉事業に使用している建物付属設備 【控除対象】社会福祉事業に使用している建物付属設備 【控除対象】社会福祉事業に使用している建物付属設備 【控除対象】社会福祉事業に使用している建物付属設備 【控除対象】社会福祉事業に使用している建物付属設備 【控除非対象】公益事業に使用している建物付属設備	138,118,079 23,306,802 246,332,788 35,687,832 58,256,502 9,675,124 223,407,780 9,748,364 10,253,603	71,321,218 7,547,846 230,622,146 23,593,344 18,657,181 1,469,284 146,836,450 1,750,714 3,526,643	66,796,861 15,758,956 15,710,642 12,094,488 39,599,321 8,205,840 76,571,330 7,997,650 6,726,960
			小計			249,462,048
構築物		—	社会福祉事業に使用するアスファルト舗装他	165,917,945	94,174,888	71,743,057
機械及び装置		—	社会福祉事業に使用する印刷機械等	712,241,393	632,391,150	79,850,243
車輛運搬具		—	【控除対象】社会福祉事業に使用するリフトバス等	50,218,346	49,855,044	363,302
器具及び備品		—	【控除対象】社会福祉事業に使用する作業機械等	365,533,612	269,233,814	96,299,798
		—	【控除非対象】公益事業に使用	9,031,994	8,382,764	649,230
			小計			96,949,028
建設仮勘定		—	【控除対象】社会福祉事業に使用	—	—	30,000
権利		—	社会福祉事業に使用する電話加入権等	—	—	16,500
ソフトウェア		—	【控除対象】社会福祉事業に使用する販売システム等	—	—	42,930,102
退職給付引当資産		—	退職給付引当金	—	—	294,780,576
その他の積立資産		—	社会福祉事業に使用する修繕費及び施設整備等	—	—	342,361,973
差入保証金		—	共同生活援助等	—	—	2,167,430
長期前払費用		—	火災保険料、キャリア/フリースペ、フリースペ使用料、等	—	—	5,444,745
その他の固定資産		—	【控除対象】社会福祉事業に使用する敷金等	—	—	2,214,840
		—	【控除非対象】公益事業	—	—	3,000
			小計			2,217,840
徴収不能引当金△		—	社会福祉事業に係る得意先等	—	—	586,340
その他の固定資産合計						1,486,680,704
固定資産合計						4,967,641,556
資産合計						9,656,679,935
II 負債の部						
1 流動負債						
短期運営資金借入金	三井住友銀行他	—		—	—	400,000,000
事業未払金	就労支援事業他	—		—	—	933,237,333
その他の未払金	就労支援事業他	—		—	—	40,082,482
1年以内返済予定設備資金借入金		—		—	—	25,956,000
1年以内返済予定長期運営資金借入金		—		—	—	1,595,000
1年以内返済予定リース債務	青葉	—		—	—	2,288,880
1年以内支払予定長期未払金	割賦代金他	—		—	—	2,433,252
未払費用	人件費他	—		—	—	71,082,481
預り金	就労支援事業他	—		—	—	62,413,040
職員預り金	社会保険料他	—		—	—	10,610,809
前受金	就労支援事業他	—		—	—	4,978,765
賞与引当金		—		—	—	190,656,798
未払税金等	消費税	—		—	—	20,776,362
流動負債合計						1,766,111,193
2 固定負債						
設備資金借入金	三菱UFJ銀行、三井住友銀行	—		—	—	263,066,000
長期運営資金借入金	福祉医療機構	—		—	—	28,405,000
リース債務	青葉	—		—	—	6,791,180
退職給付引当金		—		—	—	322,167,122
役員退職慰労引当金		—		—	—	3,484,374
長期未払金	障害福祉サービス等	—		—	—	4,571,974
固定負債合計						628,485,650
負債合計						2,394,596,843
差引純資産						7,262,083,092

アートビリティ Artbility ギャラリー 54



『木漏れ日』

吉野 公賀（よしの ともりの）さん

今回「コロニーとうきょう」の表紙としてこの『木漏れ日』を選んだのは、初夏の風が吹き抜けるような、そんな清々しさを感じていただきたいからです。失明への恐怖という「宿命」を受け止める中で、活動の方向性と新たな表現を模索する吉野さんの世界を、当事務局のホームページでどうぞご覧ください。

【作家プロフィール】

1977年生まれ。岐阜県在住。

2000年～ 緑内障の発症により右眼の視力・視野のほとんどを失う。

2001年～ 手術後、独学で絵を描き始め、各地で個展を開催。

2007年 ニューヨークで個展を開催するが、左眼が悪化。

可能性を模索しながら、独自性の高い新たな表現を追求する。

パートナーシップによる活動を軸に、作品の採用実績を積み重ねている。

2007年 「国際アートトリエンナーレ2007」入選

2013年 アートビリティ登録作家となる。

2016年 「ギリアド・サイエンシズ株式会社 デザインコンペ」入賞

2017年 「LIXILビバ エレベーターデザインコンペ」銀賞

「SOMPO パラリンアートカップ2017」入選

2024年 「アートパラ深川大賞2024」

メインパートナー 株式会社JTB賞 受賞

■アートビリティ…障害者の所得支援を続けてきた社会福祉法人東京コロニーが、アートの分野で力を発揮する人材を後押しし、その才能を収入に結び付けるために始めた事業です。約200名の作家による6,400点以上の作品が揃ったアートライブラリーとなり、年間約400点の作品が使用されています。

ご寄附のお礼

(2024年12月～2025年5月 総額 2,220千円)

下記の皆様より、当法人に対してご寄附を賜りました。ご支援に対しまして心より感謝申し上げます。

2024年12月 沖電気工業(株) OKI 愛の募金事務局 様

2024年12月 渡 秀二様・渡 恵美子 様

2025年5月 全国本田労働組合連合会 様

◎文中の写真はご本人の了解を得て掲載しています。

ご協力の お願い	社会福祉法人東京コロニーでは、障害のある方の就労や教育、生活を支援するために数多くの事業を行っています。私どもの事業を応援して下さい方（あるいは団体）からのご協力を下記を窓口で常時受け付けております。いただきましたご寄附は、主に新しい事業の立ち上げや先進的な取組みを行うための財源に充当させていただきます。より多くの方へのより質の高いサービスをめざす当法人の事業に対し、今後ともご理解とご協力をお願いいたします。（社会福祉法人への寄附は、税金が一部免除になります。） ご寄附受付 社会福祉法人東京コロニー 法人本部事務局 tel:03-3952-6166 fax:03-3952-6664 https://www.tocolo.or.jp/contact/
-------------	---

東京コロニーのホームページ



東京コロニー メインページ
<https://www.tocolo.or.jp/>



コロニー東村山ブログ
<https://www.colony.gr.jp/colonyhigashimurayama/>



コロニー東村山
<https://www.colony.gr.jp/>



デジタル メディアセンター
<https://www.tocolo.or.jp/dmc/>



アートビリティ
<https://www.artbility.com/index.html>



東京都大田福祉工場
<https://www.ootafukushikojo.org/>



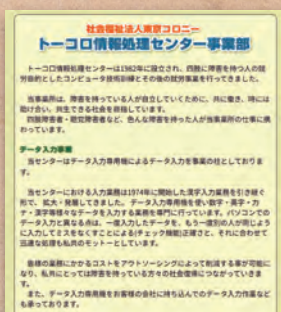
トーコロ情報処理センター職能開発室
<https://www.tocolo.or.jp/syokunou/>



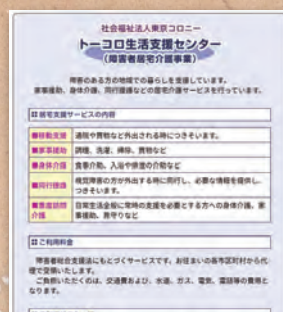
トーコロ青葉ワークセンター
<https://www.colony.gr.jp/aoba/>



東京都葛飾福祉工場
<https://www.fireman21.net/>



トーコロ情報処理センター事業部
<https://www.tocolo.or.jp/joho/>



トーコロ生活支援センター
<https://www.tocolo.or.jp/seikatu/index.html>



グループホーム
<https://www.tocolo.or.jp/grouphome/index.html>



中野区仲町就労支援事業所
<https://colony.gr.jp/nakatyoushienn/>



コロニーもみじやま支援センター
<https://colony.gr.jp/momijiyama/>



コロニー中野
<https://colony.gr.jp/colonymakano/>